

評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 8 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0570813519号
法人名	カシキガイシャ 株式会社 えがお
事業所名	グループホーム ^{スギヤ} 杉矢崎
所在地	大仙市大曲西根字杉矢崎12番地6 (電話) 0187-86-4070
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成20年11月6日

【情報提供票より】 (平成20年10月20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 (常勤6人 非常勤3人 常勤換算7.6人)

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有 (円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有 (円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 / <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.2 歳	最低 72 歳	最高 90 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙北組合総合病院、吉方内科医院、井関歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

国道脇の住宅街に建ち、広い駐車場の脇にはブドウ棚や畑、玄関前には花壇があり、野菜の収穫や花を育てるなど季節の移り変わりを実感できる環境にある。
 住み慣れた地域で、その人らしい生活を支えることを理念及び方針に掲げ、それを実践につなげようと管理者及び職員が意欲的で、利用者の言動から思いや意向を掴み取り、これまで培ってきた経験や個性に応じた生活スタイルを確立させるために日々努力している。
 そのため、法人として職員の質の向上に力を入れており、毎月のテーマ別内部研修の実施や他事業所との勉強会や交流などの機会を通じて研鑽を重ねている。
 また、医療との連携が充実しており、看護師や協力医療機関、薬剤師等とともに利用者を支えるための相談・対応体制ができています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	事業所独自で評価を行い、課題を明らかにして職員間で検討のうえ改善につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが自己評価を行い、それを管理者が取りまとめており全体で取り組んでいる。 今後は、自己評価の意義を理解しながら効果的な手法を検討してほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者及び家族、地域住民や民生委員、行政担当者が参画し、事業所の活動報告や研修計画、ボランティア受け入れなど議題を取り上げて意見交換しており、民生委員の働きかけで避難訓練に地域住民が参加するなど、会議での意見をサービスに結びつけている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には「杉矢崎だより」を送付したり、面会時や電話などで暮らしぶりや健康状態などの情報提供に努めており、意向も確認している。 また、意見箱を設置しているが十分に活用されていないため、活用方法の検討とともに利用者及び家族の潜在的な思いを引き出すための工夫が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者が保育所や小学校を訪問して行事に参加したり、近所の方が事業所の草刈りをするなど関わりがあるが、町内会への加入や老人会との交流など地域の社会資源を活用した関わりを持てるよう今後の取り組みに期待したい。 避難訓練には地域住民も参加しており、緊急災害時における連携・協力体制はできている。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営								
1. 理念と共有								
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしてふさわしい内容の理念がつくりあげられている。	○	運営上の方針や目標などを具体化し、スタッフに伝え、理念の実現に向け意識が向上して行くよう、努めて行く。	理念を具体化した運営方針として、住み慣れた地域で生活を営むことに対する支援、利用者の意思と人格の尊重、地域との連携を運営規定に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を全ての職員が意識し、実践に向けて日々取り組んでいるとは言えない。	○	全ての職員（特に新人職員）に、理念の重要性を学ぶ機会を設ける。また、実践にむけて日々取り組む。目に入る所に理念を掲げ職員の意識統一を図る。	理念は明文化し、玄関等にも掲示しているが、新人職員を含む全ての職員が意識して実践につなげ、会議等で理念を再確認したり、意思統一を図ることについては十分とは言えない。	○	管理者は就任したばかりであるため、理念を掲示するだけでなく、理念の意味を考え、どう実践に結びつけていくかを日々の中で意識化できるよう今後の取り組みに期待したい。
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時、家族には伝えていっていると思うが、理念が浸透しているとは言えないと思う。地域には、運営推進会議などで伝えていっている。	○	理念について、家族や地域に対し、理解してもらうよう、全職員が意識する必要がある。			
2. 地域との支えあい								
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣の家や、近隣の方には出会うと声をかけ合ったりしている。立ち寄ってくれるお子さんもいるが、気軽に寄ってくれる大人の方はほとんどいない。	○	隣家や、ごく近い近隣住民の方では行事への参加もあるが、もっと気軽に立ち寄ってくれるよう、会った時に（全職員が）挨拶して行きたい。			
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	孤立することなく、地域の学校との交流や、行事への参加もあるが、老人会とは交流がなく、地域行事への参加もわずかだと思ふ。	○	積極的に交流していきたい。運営推進会議で民生委員の方もいるし、きっかけづくりにもしていけたら良いのでは。地域活動の内容を把握する。	○	保育園や小学校を訪問したり、近所の方が事業所の草刈りをしてくれるなど関わりもあるが、事業所への理解不足もあり、地域行事への参加や地域の社会資源との交流は十分ではない。	地域との関わりはあるため、今後は町内会への加入や老人会との交流など積極的に働きかけてほしい。また、認知症サポーターの養成も考えていることから、運営推進会議や町内会で検討しながら実現につなげてほしい。
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の内容で取り組んでいるが昨年は、講座を開催したが（認知症について）参加者はいなかった。	○	地域の高齢者等の暮らしに役立つことの話を持ち、身近なことから初めて行きたい			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用								
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が意義を理解しているとは言えない。評価を活かして改善に取り組んできていると思う。	○	新職員もあり、初めて自己評価をすとなると研修はうけていても難しい所もあるかと思う。職員間で教え合いたい。評価は活かして具体的に改善に取り組むたい。	○	初めて自己評価する職員もいたが、全職員がそれぞれに自己評価を行い、それを管理者が取りまとめるなど全体で取り組んでいる。	全職員が評価の意義を理解しているわけではないため、自己評価の意義を理解し、記載方法の検討や評価体制を整えるなど、より効果的な評価の手法を検討してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は、重視し、サービス向上に活かす努力をしていると思う。	○	積極的な話し合い・意見交換を行い、サービス向上に活かしていく。		利用者及び家族、地域住民や民生委員、行政担当者が参画し、民生委員の働きかけで避難訓練に地域住民が参加するなど、会議での意見をサービスに結びつけている。	
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と会議以外に行き来する機会を作るよう取り組みはしているが出来ていない。	○	積極的に取り組む機会を設けて行きたい。	○	行政には定期的に事業所の状況報告を行い、運営推進会議以外にも情報提供は行うなど働きかけてはいる。	今後は、行政担当者のほか地域包括支援センター職員とも積極的に関わりを持ち、事業所の運営とサービスの質の向上に具体的に取り組めるよう連携の構築が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、主任は学ぶ機会があり、全職員にはミーティングの際、伝えているが新職員は理解しがたいところもある。必要な人には活用できるよう	<input type="radio"/>	新職員には職員間で教えあい、全員が制度の理解と活用が出来るようにして行きたい。			
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修として、全職員が学ぶ機会があり、虐待が見過ごされることがないように注意し防止に努めていると思う。	<input type="radio"/>	今後も虐待防止の継続をして行きたい			
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、理解・納得を得ている。	<input type="radio"/>	今後も理解・納得のいく説明をして行きたい。			
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の認知度により、意見・不満・苦情を訴えられる方とそうでない方がいるが、外部者へ表せる機会はあると思う。	<input type="radio"/>	今後も利用者の意見の反映をして行きたい。			
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の異動に関しては、報告がなされていない。暮らしぶりや健康状態、金銭管理等は面会時や利用料の請求時に報告している。	<input type="radio"/>	職員移動の報告に関しても随時報告して行きたい。	家族には事業所独自の広報「杉矢崎だより」を送付し、面会時には利用者の様子を詳しく伝えている。また、遠方の方で頻回に面会できない場合や特別な連絡事項があれば、随時電話で連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付はしているが、あえて機会を設けているか不明。面会時等、話をする機会はあるが、意見を言える家族とそうでない家族がいるのでは。意見書（箱）があるが活用されていない。	<input type="radio"/>	気軽に家族が意見を出せるよう、意見箱をもっとうまく活用したい。	家族に情報提供するだけでなく面会時や電話などで意向を確認しているほか、玄関先に意見箱を設置して不満や意見を把握できるように配慮している。	<input type="radio"/>	意見箱への意見が少ないことから、活用方法の検討とともに、家族会の組織化やアンケート調査の実施など利用者及び家族の潜在的な思いを把握するための工夫が望まれる。
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関し、職員の意見や提案が出る機会があまりないのでは。月一回会議があり、職員も出席しているが、うまく反映できるとはいいがたい。	<input type="radio"/>	うまく反映できるよう積極的な意見交換の場を設けて行きたい。			
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要に応じ、話し合いをし勤務の調整に努めている。	<input type="radio"/>	柔軟な対応に向けた勤務体制を継続させて行きたい。			
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ入居者の方の環境が変わらないように、カンファレンスをし対応している。	<input type="radio"/>	利用者へのダメージを防ぐ配慮の継続をして行きたい。	法人全体で4事業所を運営しているため、事業所間の異動や離職もあるが、申し送りやカンファレンスを徹底し、利用者の理解とともにケアの標準化に努めている。	<input type="radio"/>	職員の異動を利用者に伝えておらず、また他事業所の職員交流の際も十分な説明がないため、利用者の状態に関わらず説明や理解を求めながら利用者への影響を軽減するための工夫が求められる。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は委員会を組織し毎月テーマを決めて研修をしている。また外部研修も勤務調整をし受講をしている。	○	研修や管理者研修に参加し、よりの確な指導ができるよう努力していく。	新人職員には経験ある職員がついて指導しており、日々のケアの中で気付いたことなど指導している。 また、外部研修の参加のほか内部研修を月2回行い、感染症や食中毒、センター方式など様々なテーマを法人全体で計画的に実施するなど充実している。	○	内部研修は充実しているため、職員の経験や希望、能力に応じて計画的に外部研修等にも参加できるように研修計画の作成が望まれる。 また、物理的な環境もあるが、研修を行う時間や場所の確保など、集中して取り組める環境整備に努めてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生の研修の受け入れはしているが、ご家族への説明、同意は十分とは言えない。	○	ご家族への十分な説明と受け入れ体制のマニュアル作りを検討して行く。	地域、県、全国の協議会に加入して研修等に参加しているほか、隣接市の事業所と職員の相互交流も実施するなど、職員の質の向上と事業所同士のレベルアップに努めている。	○	職員交流の目的や利用者及び家族の説明・同意も含めた手法を明確にし、今後も継続して取り組むことを期待したい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ間のコミュニケーションを図るよう心掛けているが、ストレス対策は十分とは言えない。	○	日常的にストレスが緩和できるような体制を整えていく。			
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は管理者、及びスタッフの、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○	ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	穏やかな雰囲気作りを心がけ、コミュニケーションをとり話しやすい環境を作っている。	○	今後も信頼関係を持つための工夫をして行きたい。			
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族とコミュニケーションをとりながら、信頼関係を持つ努力をしている。	○	今後も信頼関係を持つための工夫をして行きたい。			
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合ったり、居宅介護支援事業者と情報交換などの連携を図っている。	○	今後も本人や家族に対する支援の見極めに努めて行きたい。			
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	穏やかな雰囲気の中でコミュニケーションをとり、徐々に馴染み、納得していけるように努力をしている。	○	今後の利用者が安心してサービスが出来るように努めて行きたい。	事前に訪問して職員と他利用者に馴染んでもらい、お茶を飲み利用者とコミュニケーションを図りながら和やかな雰囲気づくりに努めている。 利用予定者には印象を聞くなど情報収集もを行い、他事業所のサービス利用者がいれば、連携を図りながら情報把握に努めている。	○	利用予定者と家族がともに宿泊して利用体験するなど、それぞれが納得したうえでサービスにつながるよう具体的な支援と工夫が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が、入居者に助けてもらったり教えてもらったり、一緒に過ごしていく中で、共に支えあい、喜怒哀楽を共有するような関係を築けるよう日々取り組んでいる。	○	今後も年長者である利用者から生活上のマナーを教わったりしながら支えあう関係の継続をしていきたい。	利用者のこれまでの経験を生かして料理方法や編み物のやり方を職員が教わり、お花の活け方なども参考にしている。 また、職員に対する利用者の心遣いがみえ、お互いに支え合いながら生活している。		
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にし喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築くために努力している。	○	一緒に本人を支えていく関係を築くために努力の継続をして行く。			
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの本人と家族との関係を理解し、より良い関係が築いていけるように支援する努力をしている。	○	面会の少ない利用者の家族に対して働きかけをしていきたい。			
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の意見も聞きながら、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援する努力をしている。	○	入居者一人ひとりが大切な人と触れ合ったり、交流する機会をもちながら暮らしていける支援の継続をしていきたい。			
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性のよい利用者同士と一緒に過ごせるような環境作りを行っており相互の助け合いの場面を見る事もあるが、常時できているわけではなく、また見守りも必要である。	○	さりげない見守りと一人一人にあった声がけをし、利用者間の関係の支援をしていく。			
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的ではないが、時々近況報告を聞くなどして付き合いを大切にしている。	○	継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いの努力をいって行きたい。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
1. 一人ひとりの把握								
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの状態像、生活の特性などから本人の思いや意向を引き出し把握に努めている。	○	研修を通じてアセスメント、問題意識のレベルアップも図って行きたい。	利用者の思いや意向を把握するため、内部研修でアセスメントの方法を学び、アセスメントの様式もセンター方式に改める予定である。 また、聞こえにくい、理解力が十分ではないなどコミュニケーションが難しい方には、心身の状態に配慮しながら利用者の言動による意向の把握に努めている。	○	すべての職員が利用者の思いや意向を掴み取ることができるよう今後も継続して職員のレベルアップに努め、ケアの標準化につなげてほしい。
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際本人、家族から出来るだけ詳しく聞き、経過の把握に努めている。	○	研修を通じてアセスメント、問題意識のレベルアップも図って行きたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価		外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別の記録の他に昼夜の様子が把握できるような記録、排泄状況、食事摂取状況等の記録をしている。	○	研修などを通じて学習しこれからも徹底して行く。			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し								
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族とは相談しながら作成している。本人からは日常的に生活する中で、意識的に本人が求めていることを引き出し、その思いを取り入れて作成している。	○	今後も本人の思いを取り入れてチームで作る介護計画を継続して行く。			担当職員が日々の暮らしの中から利用者の要望や思いを把握するなど情報収集に努め、計画作成担当者が家族の意向を確認し、カンファレンスのうえ計画を作成している。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスし、3ヶ月ごとに判定会を行い見直しも出来ている。また状態変化時のカンファオンスも行い見直しが出来ている。	○	今後も現状に即した新たな計画作りをして行く。			毎月カンファレンスを実施しており、1か月に一度はモニタリングを、3か月に一度は判定会議を開催して状態変化等に対応し、家族の意向も確認している。 また、より良い手法としてセンター方式を取り入れるために検討中である。
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子やケアの実践を記入している。情報を共有するため申し送りノート、連絡ノートも活用している。	○	今後も記録と実践の継続をして行きたい。			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望により支援している。	○	本人や家族の希望により柔軟な支援をして行きたい。			月2回の薬剤師による服薬指導や非常勤看護師による24時間対応など医療との連携が充実している。 また、利用者及び家族からの希望にはできる限り対応していく考えである。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	消防署からは防災訓練で定期的に訪問してもらっている。地域の学校行事にも積極的に参加している。また緊急時の医療確保も出来ている。	○	これからも地域資源との協働を継続して行きたい。			
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は本人の意向や必要性がないが、希望があれば支援していく。	○	他サービスの利用の希望に備えて情報収集に努めて行きたい。			
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在はしていないが必要に応じて協働出来る体制にある。	○	必要に応じて地域包括支援センターとの協働できる体制を継続して行きたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価		外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切にし、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局を利用し適切な医療を受けられるよう支援している。	○	今後も適切な医療を受けられるよう支援の継続をいって行きたい。	かかりつけ医による健康診断のほか、総合病院や歯科、内科医院など地域の協力医療機関とも連携がとれており柔軟に対応している。 また、薬局の薬剤師が定期的に訪問のうえ指導してくれる。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ専門医に紹介してもらい受診ができています。精神科領域の入居者さんは状態が安定するまで専門家の受診を継続している。	○	今後も認知症に関する診断や治療方法について、助言を受けられるよう支援して行きたい。			
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所に看護師を配置しており24時間連絡体制を確保して健康管理や医療チェックの支援を行っている。	○	今後も健康管理や医療チェックの支援の継続をして行きたい。			
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した時点から、早期退院に向けた働きかけを病院職員やご家族と話し合いながら支援している。	○	今後も医療機関との協働に努めて行きたい。			
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応指針を定め、入居の際に入居者または家族の同意を得ている。	○	今後も状態変化時の把握や情報提供などに努め、方針の共有を継続して行きたい。	看取りに関する指針は策定しているが、現在は医療が必要になれば退居して病院に入院しており、家族も状態が悪化すれば医療機関に入院するものと考えている。	○	重度化や終末期に対する認識が十分ではないため、研修等で職員の理解を深めるとともに家族へも説明を行い、今後の支援につなげてほしい。
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在はしていないが必要に応じて協働出来る体制にある。	○	今後の変化に備えて検討や準備を行って行きたい。			
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	同じような環境で生活できるよう介護サマリーなどを活用し情報提供を行っている。	○	今後も住み替えによるダメージを防ぐために対応の継続をして行く。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1)一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしていないが記録に関しては曖昧な点がある。	○	プライバシーの確保の徹底をスタッフに周知徹底していく。	利用者の尊厳に配慮しながら方言を交えた穏やかな言動で接しているほか、洗面所と脱衣が同じ場所のため「入浴中」の札をかけてプライバシーにも配慮している。 また、ケース記録は施錠のうえ棚に保管しており、個人情報保護に関しても徹底している。	○	ホールで記録をつけて会議を行っており、声を低くしたり、個人名を出さないなど利用者に配慮してはいるが、簡易なものでも面会や会議のためのスペースを確保するなど何らかの工夫が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知度の違いもあり、出来ている利用者とならない利用者がある。	○	入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っているよう努力して行く。			
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、一日を過ごしていただいているが、その日をどのように過ごしたいか、という希望にそえて支援が十分とは言えない。	○	一人ひとりの生活リズムやペースに合わせた支援を心掛け行っていく。	遅く起きて10時過ぎに朝食を摂ったり、夜間に入浴を希望する方がいるほか、ホールで居眠りしている方でも落ち着くということから無理に居室に連れて行くことはなく、その方の思いやペースを尊重しながら支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その方らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援しているが本人の望む理容・美容店に行けるかは疑問。	○	理容・美容は本人の希望にそった店にいける様、配慮していく。			
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事準備をし、食事をとっており、片付けも行っている。一人一人の好みを食事にとり入れるとは言い難い。	○	一人ひとりの好みや力を活かし、食事を楽めるように支援したい。	利用者の多くはエプロン姿で、食材を刻んだり盛りつけしているほか、食後の片づけや食器を拭くなどして自主的に関わっている。また、サポートが必要な方の隣には職員が座り、声かけしながら食事を楽めるよう支援している。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	出来ている利用者とならない利用者があり、日常的に支援できているとは言い難い。	○	好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援していきたい。			
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように「尊厳の保持」に配慮して支援している	出来るだけ失敗を減らし、気持ちよく排泄できるよう、また不安や羞恥心、プライバシーにも配慮している。	○	今後も尊厳の保持に配慮した支援を継続して行きたい。			
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	一人一人の希望を優先している。認知度の違いで希望を言えない方もいるが、タイミングや健康状態に合わせて支援している。	○	入居者一人ひとりの健康状態や希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援の継続をして行きたい。	夜間に入浴する方や日中に入浴を希望する方、毎日の入浴や1日おきに入浴する方もおり、できる限り支援している。また、入浴を嫌がる場合は声かけて促しており、入浴中は見守りや介助により安全な入浴を支援している。	○	浴槽が深く転倒の危険性があることから、より安全な入浴を支援するため、浴槽の中に何かを敷いて高さを調節するなどの工夫が求められる。
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人のペースを大切にしているため、その時の状況で休息したり眠れるように支援できている。	○	今後もひとり一人の生活パターンを把握し、安眠と休息が取れる環境作りの継続をして行く。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を活かした役割り、楽しみごと、気晴らしの支援をするよう取り組んでいる。	○	生きがいを持ち、自分らしく暮らせるよう支援の継続をしていきたい。	朝起きてカーテンを開閉したり、仏様のご飯の上げ下げや玄関の掃除などを自発的に行っている。 また、食事づくりや花を選んで生け花をするなど、その方に合った役割や楽しみを持って過ごしている。		
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはGH管理であるが本人、家族の理解を得て許容範囲内の金額で自己管理している利用者おり、支援している。	○	今後も希望や力量に応じた金銭管理の支援をしていきたい。			
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ希望にそって戸外に出れるよう支援しているが利用者の身体的理由により十分に希望にそっているとは言い難い。	○	歩行状態の悪い人や混乱し易い利用者の支援の仕方を検討していきたい。	買い物や近隣の公園、農業科学館などに出かけているほか、行事などでドライブにも出かけている。 また、玄関先での外気欲や近所の散歩など気軽に行動できるよう配慮している。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりが行ってみたいところの希望を聞く機会があまりない。家族と共に普段行けない場所への外出は支援している。	○	一人ひとりが行ってみたいところの希望を聞く機会があまりないため、日常会話から意向を引き出して希望にそって行きたい。			
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望に沿い、電話や手紙のやり取りの支援を行っている。	○	今後もプライバシーに配慮しながら支援を行って行きたい。			
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問し、居心地良く過ごせるよう、配慮をしている。	○	今後も気軽に立ち寄れる場所として心地よく過ごせるよう工夫をして行きたい。			
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会に全職員出席し理解に努めており、拘束しないケアを行っている。	○	今後も身体拘束のないケアを実践して行きたい。			
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は自由に入出入りできるようになっており、夜間のみ鍵をかけている。	○	今後も鍵をかけず、見守りを行って行きたい。	日中は鍵をかけず利用者の行動を制限することなく、夜間は就寝時に施錠している。 また、利用者が外に出るときは見守りを徹底し、散歩に付き添うなど安全にも配慮している。	○	地域の方々に理解と協力を呼びかけ、地域全体で利用者を支える仕組みづくりに向けて取り組んでほしい。
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者を見守りやすい場所において状況の把握に努めており、夜間巡回も頻回に行っている。	○	さりげない見守りとスタッフ間の声かけが徹底できるよう日常的に意識化し、安全確認して行きたい。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品については、保管場所や管理方法を決めている。	○	一人ひとりの状態に応じて使用し、見守りをしていく。			
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルはあるが、すべてのスタッフが内容を熟知しているとはいえない。	○	緊急事態の対応に備えて、知識を学び、訓練していく			
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	全ての職員とは言い難い。緊急時のマニュアルはあり、心肺蘇生、人工呼吸の講習は受けている。	○	全ての職員（特に新人職員）に、応急手当や初期対応の実践訓練を行って行きたい。			
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は行っており、地域の方も参加してくれている。また、運営推進会議でも話し合いはなされているが積極的な働きかけは不十分である。	○	実際に協力体制が得られるような積極的な働きかけをしていく。	消防署の協力を得て避難訓練や地震訓練を実施しており、地域住民も訓練に参加して緊急時の対応を確認している。 また、緊急連絡網を整備しているほか、缶詰や水の備蓄、家具への転倒防止対策、玄関へのヘルメット準備など非常時に備えている。		
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	十分に説明を行い、理解・納得を得ている。	○	今後も体調変化の報告を蜜にし理解、納得してもらおうよう話し合っていく。			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックなどで一人ひとりの健康状態に注意し、異変時にはすぐに対応するようにしている。	○	今後も体調変化の早期発見に努め、速やかな対応をして行きたい。			
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが薬の内容を把握できているとはいえない。	○	スタッフ全員が薬の目的や副作用、用法など知識を学習できる体制を作っていく。			
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの食事、排泄、活動状況をチェックし自然排便を促す工夫をしている。	○	今後も出来るだけ便秘にならないよう、飲食物の工夫を行ったり身体を動かす工夫をして行きたい。			
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時や就寝時の歯磨きや義歯洗浄は行っているが、歯茎の炎症などのチェックは不十分である。	○	口腔ケアの必要性を再認識できるよう、全スタッフが研修を積んでいく。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう状況を把握 し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じ た支援をしている	摂取量のチェックや、水分をあまりとらない方は 代替品を提供する等一人一人に合わせ支援してい る。	○	今後も利用者ごとに栄養摂取や水分確保の支援を して行く。	摂取量チェック表により、毎食後に食事や水分 量を把握して記録しており、それに基づいて献立 を立て、栄養バランスが偏らないよう心がけてい る。	○	栄養バランスが適正かどうかを把握するため、 年に数回は栄養士などの専門家に献立をチェッ クしてもらい、確実な支援につなげてほしい。
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決め があり、実行している（インフルエン ザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイル ス等）	委員会があり、委員を中心に予防に取り組んでい る。	○	これからも周知徹底して行く。			
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場とし ての台所、調理用具等の衛生管理を行 い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努 めている	調理器具等の消毒や、食材は安全な物を使うよ う、工夫し管理している。	○	これからも周知徹底して行く。			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工 夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親 しみやすく、安心して出入りができるよ うに、玄関や建物周囲の工夫をしている	ごくありふれた民家を目指して、玄関前の花壇や プランターを利用し季節の花を植え、出来るだけ 一般家庭に近い雰囲気になるように努めている。	○	今後も居心地のいい環境作りのため、努力して行 きたい。			
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者 にとって不快な音や臭いや光がないよ うに配慮し、生活感や季節感を採り入れ て、居心地よく過ごせるような工夫をし ている	家庭的な雰囲気になるよう、また季節感のある 物・入居者さんが馴染みのある物を用意するよ うに心掛けているが、設備は事務的だったり施設の だったりしているところもある。	○	消防法や介護保険法を遵守すると家庭的雰囲気と 相容れない部分もあるが小物の工夫をして行きた い。	共有空間にはソファを配置し、天井が高く開 放感があり、採光も十分で不快な音や臭いもなく 快適な空間となっている。 また、ホールには外出や行事時の写真を掲示 し、時計やカレンダーを見やすい場所に置き、ト イレや浴室前には名札を下げて過ごしやすい環境 づくりに努めている。		
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所 づくり 共用空間の中には、独りになれたり、 気の合った利用者同士で思い思いに過 ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間がオープンスペースではあるが、ソ ファや椅子を配置し自由にくつろげるようにし ている。また、利用者同士の関係性や状態に応じ た環境作りを心掛け、確保できている。	○	今後も安心できる居場所作りのため、配慮をして 行きたい。			
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使っていた物や、使いなれた家具を 使用しているがすべてが持ち込まれているわけ もない。	○	家族の理解と協力が得られるよう努力し、なじみ の環境が提供出来るよう工夫して行きたい。	子供や孫の写真、手紙を飾る方やぬいぐるみを たくさん置いている方など、利用者の好みにより 個人差がある。 また、居室の配置も自由に変え、居心地よく過 ごせるよう配慮しているほか、家族にも持ち込み に関して働きかけている。		
	84	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のだよみがなく よう換気に努め、温度調節は、外気温と 大きな差がないよう配慮し、利用者の状 況に応じてこまめに行っている	気になる臭いや空気のだよみがなく、換気 を適宜行っているがタイミングや手順に個人差が あり十分とは言えない。	○	入居者さん一人一人に合わせた適切な温度調整を 行えるよう指導し、理解を深めていく			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等で工夫しているが、玄関の段差や浴槽と洗い場の段差など十分ではない。	○	安全でなおかつ残された力を本人が活かせるような環境作りをして行きたい。			
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かる力を発揮できるような場面作りを心掛けており、一人一人が自然な形で活躍してくれている。また、認知症による誤認や錯覚を引き起こして混乱や失敗を招かないような環境作りをしている。	○	今後も混乱や失敗が起こらない環境作りの継続をして行きたい。			
	87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には物干し場、花壇、畑があり自由に水撒きや草取り、外気浴等活动できるようにしている。また、フェンスにブドウの木を植え季節感を出せるよう工夫している。	○	今後も建物の外周りや空間の活用し利用者にも楽しんでもらえるよう色々な工夫をして行きたい。			

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私達は理念に基づき、その人らしい生活を支援して行くために我が家と同じ心地いい居場所を常に考え、その地域に暮らすもの同士として人と人との絆を大切に、笑顔あふれる温かな日常生活が営まれるよう支援しています。